

有効打突について

試合、審判規則では、有効打突とは「充実した気勢、適正な姿勢をもって、竹刀の打突部で打突部位を刃筋正しく打突し、残心あるものとする。」と規定しているが、一般的には「気・剣・体の一致した打突」とも言われている。

この、有効打突の内容の評価（試合であれば一本の基準）が最も重要であり、将来の剣道の方向性を左右するものである。剣道の正しい発展を意図するためには、有効打突の質的内容について正しく理解し、より高い質を求めその向上を図っていく必要がある。

有効打突を成立させるためには、まず対人的な攻防を合理的に行うことが必要条件であり、基本動作として習得しなければならない個人的技能の内容が重要である。

1. 間合いをきちんと。
2. 打突の機会を逃すな。
3. 初太刀に全力を。

一足一刀の間、剣先が触れ合うより遠間の稽古、打間に入ってからあれこれ働くものでなく、自分の打ち間に攻め入った瞬間に余さず、全力で打ち込むこと。

もう一つは相手が不用意に自分の打ち間に入った瞬間も見逃がすことなく打ち切りことに全力、たとえ相手に返され、またははじかれても、打ち機には必ず打ち切ることが肝心である。